

事業推進における方針

- 「下関海峡エリアビジョン」を踏まえ2023年3月に策定した「あるかぼーと・唐戸エリアマスタープラン」は、あるかぼーと・唐戸エリア一帯の資源を活かし、誰もが訪れ楽しむことができるとともに、市民が誇りに思える場所の実現、市内全域に波及効果を生み出す持続可能なまちづくりを推進することを目的として、今後概ね10年間におけるあるかぼーと・唐戸エリアの段階的整備に向けた道筋を示している。
- そのような中、2025年秋にはリゾートレ下関（仮称）の開業、2026年には山口県デスティネーションキャンペーンの開催が予定されており、下関が国内外の注目を集めるまたとない機会が訪れる。
- これらの機会を的確に捉え、海峡エリアの持続的発展を実現するためには、単体の敷地での取組・単体の事業ではなく、ビジョンに基づくエリア一体での取組として海峡エリア全体での動きが一体的かつ継続的に進展し、各事業の展開とエリアの発展との好循環を生み出すことが重要である。
- このため、公民の関係主体が2025年秋を重要な中間目標地点として共有し、関連する各事業の推進に向けたロードマップを定め、これに沿った取組を進める。
- カイキョーリボンプロジェクトにおいては、特に、
 - ① 海峡エリアにおける新たなランドマークとしてのカイキョー大噴水の整備
 - ② 唐戸船溜まりや水際線の滞在性・回遊性の向上に向けた具体的な仕掛けとしてのモバイルユニットの運用開始
 - ③ 海峡ならではのワクワク感あるサービスとして魅力的な海上クルーズ事業の創出
 - ④ 宿泊施設からの回遊を誘発する夜間景観の改善の実現を目指す。
これらの実現に向けては、これまでの検討の進捗状況や社会実験を十分に踏まえ、整備等に必要な財政措置、運営に当たっての制度運用やランニングコストの道筋について公民で積極的に検討する。
- 2025年以降に訪れる2つの機会を本市全体としての情報発信の好機と捉え、これらの周辺環境整備を進めながら「日本を代表するウォーターフロントシティ」を目指していく。